



月報だよりの原稿は毎月20日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。e-mailで jimu@geppou.asj.or.jp 宛。なお、原稿も必ずFaxで0422-31-5487迄お送り下さい。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

名古屋大学大学院理学研究科素粒子宇宙物理学専攻助手

1. 助手1名
2. 天体物理学研究室（理論）
3. 理論天体物理学
5. (1) 決定後できるだけ早い時期
(2) なし
6. 博士号取得者あるいは1年以内に取得見込みの者
7. (1) 履歴書、(2) 研究業績リスト、(3) これまでの研究の概要（1200字程度）、(4) 今後の研究計画（1200字程度）、(5) 推薦書または意見書1通
8. 2003年4月30日(水)必着
9. (1) 〒464-8602 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院理学研究科
物理学教室主任 山脇幸一
(2) 天体物理学研究室（理論）池内 了
Tel: 052-789-2427
E-mail: ikeuchi@a.phys.nagoya-u.ac.jp
10. 封筒に「天体物理学研究室助手応募書類在中」と朱書し、簡易書留にて送付のこと。

理化学研究所平成16年度 基礎科学特別研究員公募

3. 物理学、化学、生物科学、医科学、工学の各分野で、理化学研究所で実施可能な研究。
 5. (1) 平成16(2004)年4月1日
 6. 平成16年4月1日現在35歳未満で、自然科学の博士号取得者又はこれと同等の能力を有すると認められる者。
※日本国に永住権を有さない外国人にあつては、上記に加え次の条件を満たす者。
(1) 応募日現在に日本国に在住している者。
(2) 日本国の大学院博士課程を修了（見込を含む）し、博士号を取得（見込を含む）の者。
- 応募要項頒布：頒布開始は4月上旬予定。
応募要項の請求は、下記Fax又はE-mailへ(1)郵便番号、(2)住所、(3)氏名（漢字）、(4)氏名（カタカナ）を記入し、送信すること。※要項代は無料
8. 平成15(2003)年5月30日(金)必着
 9. (2) 〒351-0198 埼玉県和光市広沢2-1
理化学研究所 研究調整部
研究交流課 基礎科学特別研究員担当
Tel: 048-467-9268（直通）
Fax: 048-463-3687
E-mail: wakate@postman.riken.go.jp
11. 本件は、政府予算の成立を前提としており、また当研究所は独立行政法人に移行予定ですので、手続き等を一部変更する場合があります。

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果（前所属）
3. 着任時期

東京大学大学院理学系研究科教官 (地球惑星科学専攻宇宙惑星科学講座・助教授)

1. 第95巻8月
2. 横山央明（国立天文台助手）
3. 2003年4月1日

研究助成平成 15 年度 東レ科学技術賞・研究助成の
候補者推薦のお願い

東レ科学振興会から次の概要が届きましたのでお知らせいたします。応募用紙は下記ホームページか日本天文学会までご請求下さい。

I. 東レ科学技術賞（概要）

1. 候補者の対象……天文学に関する分野で、下記に該当するもの
 - (1) 学術上の業績が顕著なもの
 - (2) 学術上重要な発見をしたもの
 - (3) 重要な発明をして、その効果が大きいもの
 - (4) 技術上重要な問題を解決して、技術の進歩に大きく貢献したもの
2. 科学技術賞……1 件につき、賞状、金メダルおよび賞金 500 万円、2 件前後。
3. 候補者推薦件数……1 学協会から 2 件以内

II. 東レ科学技術研究助成

(概要)

1. 候補者の対象……天文学に関する分野で、基礎的な研究に従事し、その研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる独創的、萌芽的研究を活発に行っている若手研究者。
2. 研究助成……総額 1 億 3 千万円、1 件 3 千万円程度まで 10 件程度。
3. 候補者推薦件数……1 学協会から 2 件以内。

III. 天文学会必着日 (I, II とも)

……平成 15 年 9 月 5 日(金)学会メ切り

- * 推薦書用紙は学会事務所まで (6 月中旬)
- * 各推薦書用紙は、ホームページからもダウンロードできます (平成 15 年 6 月中旬頃から可)。

URL: <http://www.toray.co.jp/aboutus/tsf/kagaku.html>

研究助成結果

第 43 回

(平成 14 年度) 東レ科学技術研究助成

研究題目：銀河系とは何か？ - 6 次元位相空間分布の高精度観測のための基礎開発 -

代表研究者：国立天文台位置天体・天体力学研究系教授
郷田直輝

助成金額：10,000,000 円

研究会・集会案内

地球惑星科学関連学会 2003 年合同大会

日時：5 月 26 日(月)～5 月 29 日(木)

場所：千葉幕張メッセ国際会議場

詳細は以下の合同大会トップページをご参照下さい。

<http://www.epsu.jp/jmoo2003/main.html>

☆ より多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第 44 回科学技術映像祭入選作品発表会

日程：4 月 17(木)・18 日(金) (入場無料)

会場：科学技術館・サイエンスホール

(千代田区北の丸公園 2-1)

『未知への航海—すばる望遠鏡建設の記録—』が文部科学大臣賞を受賞

問い合わせ先：日本科学技術振興財団・振興部

Tel: 03-3212-2454

URL : <http://ppd.jsf.or.jp/shinko/pro/s-m/index.htm>

会務案内

【理事会議事録】

日 時：2003 年 1 月 11 日(土)

11 時 00 分～16 時 30 分

場 所：国立天文台大会議室

出席者：松田、祖父江、若松、杉山、郷田、関井、松原、蜂巢、土橋、土居、田、谷口、粟木、佐藤、花見

欠席者：なし

有効委任状提出者：なし

他に、旧理事として田原、立松、上野、大橋、茂山、加藤、松元、黒田、吉田、山内、及び、東條事務長が参加した。

議事に先立ち、署名人を選出した

議長：松田卓也

署名人：郷田直輝、杉山 直

報告

1. 前回議事録の確認 (資料1)

郷田理事より前回 (2002年10月7日) の理事会議事録が報告され、原案通り承認された。

2. 今後の年会について

東北大学がホストとなる2003年春季年会について谷口理事より、愛媛大学がホストになる2003年秋季年会について粟木理事より、準備状況に関して報告があった。名古屋大学がホストとなる2004年春季年会について、佐藤理事より、日程は三月中ごろ、3日間プラス最後に日曜日の予定で進めている旨、岩手大学がホストとなる2004年秋季年会については、花見理事より、9月下旬の日程で準備を進めている旨の報告があった。

3. 小柴先生の講演会共催について

郷田理事より、物理学会年次大会中に行われる総合講演会の協賛として、3月30日(日)に講演会が行われることが、前期の天文学会理事会、及び物理学会理事会で決定していることが報告された。この講演会の参加に限って、天文学会員であれば登録料が不要となる。マスコミ等と共催することを検討していた講演会は時期を逸したために当面見送ることとする。今後は迅速な対応が望まれる。

4. 記念出版事業と編集委員会について (資料2)

郷田理事より、現在の進行状況について報告があった。東京大学岡村氏が委員長に選出され、編集委員会の編成や今後のスケジュールの検討などが行われている状況である。可能ならば、3月の理事会において編集委員が提案される予定である。

5. ALMA 要望書の提出について (資料3)

郷田理事、田原前理事長より、要望書に対する反響について報告が行われた。さらに強く世論に訴える必要があるとの指摘が各所からされた。赤旗の記事に天文学会の要望書についての言及があった。

6. その他

(1) 日本の科学を病弊させるトップダウン政策の見直しを (資料4)

加藤前理事より、学術会議天文研連から出された、総合科学技術会議のトップダウン政策に対する批判の声明に関して報告があった。

(2) UAPについて (資料13)

郷田理事より、状況説明が行われた。現在係争中であるが、2003年1月20日に時効が成立する。なにかあった場合には、弁護士を通すことを周知する。

(3) 天文月報編集委員の追加

上野前理事より、県立群馬天文台の濤崎氏を加えることが前期の持ち回り理事会で決定され、理事長によって任命された旨、報告があった。

(4) 天文月報二重投稿について

上野前理事より、商業誌との二重投稿があったが、著者から原稿がとり上げられたとの報告があった。著作権に関する啓発、引用の場合のガイドラインのまとめなどについて意見交換された。

(5) PASJ reference の簡略化

大橋前理事より、Referenceの書式を簡略化し、著者数が9人以上の場合、第一著者の後をet al.とすることにした。これにより書式はApJと共通になる、との報告があった。

(6) 男女共同参画学協会連絡会設立集会について (追加資料)

加藤前理事より、設立の経緯および天文学会も正式参加した旨の報告があった。

議題

1. 2002年度事業報告書案 (資料5)

2002年度事業報告書案を郷田理事が説明し、質疑応答の後、一部修正の上、同報告書案は承認された。

2. 2002年度収支決算報告書案 (資料6)

2002年度収支決算報告書案を松原理事が報告し、質疑応答の後、一部修正の上、同報告書案は承認された。

3. 監査報告 (資料7)

2003年1月9日に実施された監査の結果、上記事業報告書案及び収支決算報告書案が正当であると認められたことを監事の代理として杉山理事が報告し、理事会としても了承した。

4. 新入会員の承認 (資料8)

郷田理事より、資料に基づき、新規加入者の紹介があり、承認された。

5. 内地留学奨学金に関する内規改定案 (資料9)

郷田理事より、西村委員長からの第4条「留学希望年度の前年の9月末までに」を「留学希望年度の前年の別途公示する期日までに」に変更するという提案が報告され、承認された。従って、この提案を評議員会に諮ることとした。

6. 天文学会各賞・基金の英文名 (資料10)

郷田理事より、英文名の案が報告され、議論の後、承認された。

7. 第8回IAUアジア・太平洋地域会議会計監査の人選

IAU地域会議の会計監査の人選について、長谷川組織委員長から委嘱の依頼があった旨、郷田理事から報告があり、議論の結果、関井理事に決定した。

8. IAU京都総会記念基金会計の終了及び、記念基金内規の廃止 (資料11)

郷田理事より、事情説明があり、廃止が決定された。

9. 第19期日本学術会議会員候補者選挙について

郷田理事より、選挙が中止となった経緯について

説明があった。日本学術会議からの今後の急な依頼に関しては、通常の方法では対応できないので、やむをえない場合については、内規とは異なるが、理事会で対応することとし、この件について評議員会に諮ることとした。この旨を次回の評議員会に報告する。

10. 各委員会等の申し送り事項（資料 12）

資料に基づき、申し送り事項に関して、旧理事より、新理事に引き継がれた。

11. 民間財団等の賞の推薦方法について

評議員会から、理事会において、学会からの推薦を積極的に行うのに有効・適切な方法を考えるようにとの依頼があった。諮問委員会をつくる、すでに経験のある林賞などの選考委員会委員に委嘱する、などの提案があった。結局、理事会、評議員会、各賞の委員会に、改めて、推薦を積極的に行ってもらおうという結論になった。

12. 自薦のみの若手対象の賞について

研究奨励賞の応募で自薦も可能とする案を評議員会に出したが、それは認められなかった。そこで、奨励賞以外の、自薦だけの賞を作ったかどうか、という提案が評議員会から出されている。との説明が郷田理事よりあった。奨励賞の現状は、限られた人からの推薦が出ている。推薦されない人をどう拾い上げるのか、しかし、新たに別な賞を作る必要はない、などの議論の後に、理事会、評議員会、各賞の選考委員会に、改めて、推薦を積極的に行ってもらおうための理事長名での依頼を行う、という結論になった。

13. その他

(1) 賛助会員について

会員の半田氏より賛助会員が減少傾向にあることに対して、理事会が何か手を打つ必要があるのでは、という要望があり、その旨を郷田理事が代理で報告し、その後意見交換を行った。学生の旅費補助に充当する分なので、減少は深刻である。しかし、旅費補助が本当に必要なかまで、さかのぼって考える必要がある。努力はしても、今の経済状況では、あまり効果的ではない、などの意見がでた。しかし、努力はすべきである、また、若手への旅費援助のあり方に関する検討も考慮すべき、という結論に至った。

(2) ジュニアセッション予稿集の配布

前回の総会で、ジュニアセッションに出られない人への予稿集の配布希望が会員の阪本氏からあった旨を、郷田理事が報告した。その後、意見交換を行ったが、年会の会場にすでに置いてある事などから、事前にはしい人、学会に出席できない人は、個別に学会事務局が対応する、ということとなった。

(3) ALMA 特別セッション（資料 14）

2003 年春季年会に行われる ALMA 特別セッションに対して、会員の松尾氏から天文学会も共催して欲しいとの要望があり、郷田理事が説明した。議論の結果、共催となることは認められた。ちなみに、年会の中で共催に関してのみ、理事会にかけますが、その他は、一般に庶務理事が判断することが確認された。

(4) 光天連から 2003 年春季年会企画セッションの共催提案

茂山前理事から、2003 年春季年会企画セッション「光赤外の将来計画とサイエンス」の講演者に対して、ここでの講演が 2 つ目の講演になってしまう場合に、講演料を光天連がサポートを行うので、光天連との共催にしてもらいたい、という提案があり、議論の後に、承認された。

(5) PASJ 論文賞応募方法簡略化等

峰巣理事から、推薦要項を簡略化し、推薦しやすくするとの提案があり、了承された。従って、この案を評議員会に提案することとなった。内規の「1 年に 2 件以内」を「1 年に 3 件以内」に変えたいとの提案もあったが、次回の理事会に、正式に提案することとなった。

(6) 総合科学学術会議に対する声明

郷田理事より、物理学会等とも連携して反対声明を出したいとの説明があり、松原理事から補足説明が行われた。松原理事が、原案を取りまとめ、持ち回りの理事会を経て、評議員会に諮ることになった。

(7) 次回以降の日程

今回の理事会は、春季年会中の 3 月 24 日(月) 昼休み、次々回は 6 月 28 日(土)、国立天文台で行うこととなった。

2003 年 1 月 25 日

議長 松田卓也 印
署名人 郷田直輝 印
署名人 杉山 直 印

早川幸男基金へのご寄付 (若手海外学術研究援助基金)

2003 年 2 月 20 日に、(社)日本天文学会会員の佐藤明達氏より当基金へ 500 万円のご寄付を頂きました。佐藤明達氏に御礼申し上げますと共に会員の皆様にお知らせ致します。

社団法人 日本天文学会
理事長 松田卓也

【評議員会議事録】

日時：2003年1月25日(土) 11時～17時
場所：国立天文台 大会議室(南研1階)

出席者：井上, 海部, 加藤, 小山, 柴田, 須藤, 舞原,
牧島, 吉井, 家, 池内, 石黒, 木下, 高津, 小杉,
佐藤(勝), 谷口, 松田, 渡部 以上19名
欠席者：太田, 岡村, 千田, 高橋, 高原, 福井,
佐藤(修), 中村, 野本, 長谷川, 林 以上11名
有効委任状提出者：太田, 岡村, 千田, 高原,
佐藤(修), 野本, 長谷川 以上7名

他に理事会から, 祖父江, 若松, 杉山, 郷田, 関井,
松原, 蜂巣, 及び, 東條事務長が参加した。

議事に先立ち, 議長及び署名人を選出した。
議長：牧島一夫
署名人：家 正則, 加藤万里子

報告

1. 前回議事録の確認(資料1)
郷田理事より前回(2002年10月8日)の評議員
会議事録が報告され, 承認された。
2. 2002年度早川幸男基金援助者選考結果の報告
(資料2)
前選考委員会委員長須藤評議員より, 申請者数
42名, 採択者数24名であったことなど, 2002年度
の選考結果について報告があった。
3. 今後の年会について
2003年春(東北大学)・秋(愛媛大学), 2004年
春(名古屋大学)・秋(岩手大学, 国立天文台水沢)
の予定であると決定している。谷口評議員より
2003年春の準備状況が報告された。2003年秋,
2004年春・秋については郷田理事より, 準備状況
について報告された。
4. ALMA 要望書の提出について(資料3)
郷田理事より, 前回の評議委員会の議決に基づい
て, ALMA 要望書を文部科学大臣宛に11月25日
付けで提出したことが報告された。また海部評議員
より, ALMA の予算的見通しについて説明があり,
その後意見交換が行われた。
5. 日本の科学を病弊させるトップダウン政策の見直
しを(資料4)
池内評議員より, 12月に出された天文研連から
の表記の声明について報告があった。研連名で出す
ことが規約違反であったことから, 吉川学術会議会
長より注意処分を受けたが, 各方面への反響は大き

く, 声明を出した効果も認められる。加藤評議員よ
り補足があり, その後意見交換が行われた。これに
関連して, 海部評議員より, 学術分科会, 大学共同
利用機関特別委員会での, 「今後の学術推進体制検
討に関する要望」に関する背景説明, に関する報告
があった。さらに学術会議全体としての対応に対し
て佐藤(勝)評議員より質問があり, 池内氏より第
四部での議論の進捗状況について報告がされた。ま
た, 学術会議のあり方に対する懸念が海部氏より出
された。

6. 小柴先生の講演会共催について

郷田理事より, 物理学会年次大会中に行われる総
合講演会(3月30日(日), 仙台国際センター)に
天文学会も協賛となること, 前期の天文学会理事
会, 及び物理学会理事会で決定していることが報告
された。この講演会の参加に限って, 天文学会員で
あれば登録料が不要となる。

天文月報3月号に詳細な案内が掲載される予定で
ある。

池内評議員から, 学術会議(天文研連, 物研連,
宇宙空間研連)主催のシンポジウムも5月14日に
学術会議講堂で行われる予定であることが報告され
た。また, 天文学会が共催に加わることにに関して,
その場で理事会に対して要請を行った。

7. 記念出版事業と編集委員会について(資料5)

郷田理事より, 現在の進行状況について報告があ
った。岡村評議員が編集委員長に選出され, 編集委
員会の編成や今後のスケジュールの検討などが行わ
れている状況である。可能なならば, 3月の理事会に
おいて, 岡村編集委員長からの提案を受けた上で編
集委員を決定し, 評議委員会, 総会で編集委員が報
告される予定である。

8. UAP について(資料6)

郷田理事より, 状況説明が行われた。係争中であ
ったが, 2003年1月20日に時効が成立した。相殺
するために当てる予定であった92万円は, 雑収入
に組み入れる。

9. その他

(1) 男女共同参画学協会連絡会参加について

前天文教育理事の加藤評議員から, 設立の経緯お
よび天文学会も正式参加した旨報告があった。今後
アンケートなども予定されている。理事会からの今
後の参加メンバーは理事会で検討する。

(2) IAU 京都総会記念基金会計の終了と内規の廃止 (資料13)

郷田理事より, 事情説明があった。

議題

1. 天体発見賞, 研究奨励賞, 林 忠四郎賞, 欧文報

告論文賞, 天文功労賞の2002年度の各受賞者の決定(資料7)

この議題に限り, 受賞対象者になっている牧島議長に代わって, 松田理事長(評議員)が議長となった。

天体発見賞選考委員である渡部評議員より, 天体発見賞, 天体発見功労賞, 及び天文功労賞候補の選考結果が報告された。天体発見賞13件, 天体発見功労賞5件, 天文功労賞2件(長期的な業績1, 短期的な業績1)であった。天体発見賞に関して, 候補者に宇宙飛行士の土井氏が入っていること, プロジェクトが候補になっていることなどについて説明があり, 意見交換の後に, それぞれ下記のような受賞者が満場一致で決定された。

続いて, 前年度の研究奨励賞選考委員長である蜂巣理事より, 研究奨励賞候補者の選考結果が報告された。3件の推薦であった。意見交換の結果, 北山氏の研究テーマの字句については, 後で訂正することとなったが, 推薦どおり, 満場一致で下記のように決定された。最後に, 林忠四郎賞選考委員である海部評議員より, 林忠四郎賞及び, 欧文報告論文賞の候補者の選考結果が報告された。林忠四郎賞1件, 欧文報告論文賞1件であった。意見交換を行い, 満場一致で下記のように決定された。

天体発見賞: 佐野康男, 広瀬洋治, 串田麗樹(2件), 土井隆雄, MISAO プロジェクト, 長谷田勝美(2件), 板垣公一, 池谷 薫, 宇都宮章吾, 鈴木雅之, 工藤哲生の各氏(13件, 11名)

天体発見功労賞: 村上茂樹, 藤川繁久, 中村祐二, 広瀬洋治, 串田麗樹の各氏(5名)

天文功労賞: 長期的な業績として広瀬敏夫氏, 短期的な業績として早水 勉氏(2名)

研究奨励賞: 大西利和, 北山 哲, 小久保英一郎の各氏(3名)

林忠四郎賞: 福井康雄氏(1名)

欧文報告論文賞 受賞論文名: Metal Abundances in the Hot Interstellar Medium in Early-Type Galaxies Observed with ASCA, 著者: 松下恭子, 大橋隆哉, 牧島一夫の各氏(1件, 3名)

2. 2002年度事業報告書案(資料8)

2002年度事業報告書案を郷田理事が説明し, 質疑応答の後, 一部字句の修正の上, 同報告書案は承認された。

3. 2002年度収支決算報告書案(資料9)

2002年度収支決算報告書案を松原理事が報告し, 質疑応答の後, 同報告書案は承認された。

4. 監査報告(資料10)

2003年1月9日に実施された監査の結果, 上記事業報告書案及び収支決算報告書案が正当であると認められたことを監事の代理として杉山理事が報告

し, 評議員会としても了承した。

5. 会費未納者の除名について(資料11)

2001年度会費より会費を滞納している, 正会員11名, 準会員9名, 団体会員1団体が郷田理事より紹介され, 除名が承認された。

6. 第19期日本学術会議会員候補者選挙について

郷田理事より, 選挙が中止となった経緯について説明があった。2月14日に学術会議からの会員候補依頼に関する説明会があり東條事務長が出席の予定である。次に, 池内評議員(学術会議会員)より, 19期は結局これまでと同じやり方で選出を行うことに決まったとの報告があった。そこで, 説明会前ではあるが緊急に選挙を行う方向で進めることとする。日本学術会議からの今後の急な依頼に関しては, 通常の方法では対応できないので, やむをえない場合については, 選挙結果に基づく候補者の決定と推薦人の決定を選挙に関する内規とは異なる処置を理事会の判断で行っても良いことが承認された。持ち回りの評議員会が必要となった場合には, 今回の議長である牧島評議員がまとめ役を勤めることとなった。海部評議員から, 月報の記事として学術会議の問題点について書いたものを載せるべきとの意見がだされ, 池内氏に状況説明の執筆を依頼した。

7. 内地留学奨学金に関する内規改訂案(資料12)

郷田理事より, 内地留学奨学金選考委員会西村委員長からの第4条「留学希望年度の前年の9月末までに」を「留学希望年度の前年の別途公示する期日までに」に変更するという提案が報告され, 議論の後に, 承認された。

8. 天文学会各賞・基金の英文名(資料13)

郷田理事より, 英文名の案(資料13)が報告され, 議論の後, 原案の人名の部分日本語の順, 具体的には The Hayashi Chushiro Prize, The Hayakawa Satio Fund に変更したものが承認された。

9. その他

(1) 民間財団等の賞の推薦方法について

郷田理事から, 理事会で検討した結果が報告された。理事会, 評議員会, 各賞の委員会に, 改めて, 推薦を積極的に行ってもらおうという結論であった。これまでに行ってきた月報への掲載以外にも, 最低限メイリングリストなどを用いて賞の推薦応募の周知徹底を行うべきである, 理事長, 副理事長や林忠四郎賞選考委員会の下に委員会をつくるべきだ, などの意見が出された。結局, 理事長, 副理事長, 林忠四郎賞選考委員会に選考の権限を与えるとともに, 推薦も積極的に行ってもらおうこととなった。

(2) 自薦のみの若手対象の賞について

郷田理事より, 自薦のみの若手対象の賞に関する, 理事会での議論が報告された。結論としては, 新た

に別な賞を作る必要はないが、理事会、評議員会、各賞の選考委員会に、改めて、推薦を積極的に行ってもらったための理事長名での依頼を行う、というものであった。意見が交わされたが、現行の奨励賞の枠が3名に増えたこともあるので、当面は推移を見守る、ということとなった。

(3) 欧文報告論文賞応募方法の簡略化について (資料14)

峰棠理事から、推薦要項を簡略化し、推薦しやすくすると提案があり、質疑の後に、了承された。

(4) Mt. Stromlo 火災の件

杉山理事より、理事会での議論で、1) 英文のお見舞いの手紙を出すこと、2) 天文学会の予算から fund に供出すること、3) 天文学会が募金を集める、という3つの提案があることが報告された。1) の英文の手紙に関しては、理事長が責任をもって個人で書くということになった。海部評議員より、2)、3) は天文台、スタッフ、学生の3つに対する寄付がすでに募られている、各個人レベルでこの寄付を行えばよいのではないか、という意見が出された。意見交換の結果、学会としては、web 上での寄付が行われていることの周知を行うとともに、2003 年春季年會会場において天文台の再建に関する寄付を集め、学会名で送金することとなった。

(5) 若手に対する年會出席の旅費補助について

松原理事より、正会員(学生)が増加し、賛助会員が減少している現状では、旅費補助に費やす予算が厳しくなっていることが報告された。今のままでは、充足率が20%程度になってしまう。高津評議員より若手の声が報告された。補助はやはり欲しい、遠方からの参加だけに出すことは良いのではないかと、早川基金から回せないか、などの意見が紹介された。このうち、早川基金は、寄付されている方の意志により、別の目的には使えない。柴田評議員より、時代が変わってきているのだから、ここで一度制度そのものを見直すべきではないか、との意見がだされた。旅費補助が本当に必要な会員はどれだけいるのか、もう一度調べてくるようにとの依頼を高津評議員をはじめ若手の会の推薦を受けている評議員に行った。

(6) 総合科学技術会議による査定に対するの声明文について (資料15)

声明文の原案について、松原理事から説明があった。それを受けて、声明文の提出先や内容に関して、次のような意見交換を行った。少なくとも理学会全体からサポートされる内容にしたい、我々の「利益集団」以外からも認められる内容であるべきである、我田引水になっている部分が問題である、基礎科学の重要性を強調すべき、天文連連の声明を繰り返し

ても意味がない、トップダウンとボトムアップの定義が明確でない、前回の評価に対する苦言よりも次への提言があるべきである、トップダウンの具体的問題点を指摘すべき(例えば、一部の人間に多すぎる予算が配分される)、学会としてやるならもっと一般の人にアピールするものにすべきである、総合科学技術会議を否定するのではなくそれを良いものにしていくべき、関連学会の研究者をターゲットとすべき、などの意見が出された。牧島議長から、なぜトップダウンの政策が一人歩きすることになったのか、それによってどのような弊害がおきているのか、我々としてどうしていくべきなのか、を考えるべきである、とのまとめが述べられた。他の学会、例えば物理学会と一緒に出せばインパクトがより大きなものになるとの意見がだされ、会長声明レベルで連携する可能性を探ることとなった。具体的に、理事長、副理事長、佐藤(勝)評議員、池内評議員、海部評議員の6名の特務委員会を設置することが決まった。委員長は松田理事長が勤める。

(7) 次回以降の日程

今回の評議員会は、春季年會中の3月25日(火)昼休み、次々回は7月5日(土)、国立天文台で行うこととなった。

2003年2月19日

議長 牧島一夫 印
署名人 家正則 印
署名人 加藤万里子 印

天文学会各賞、基金の英文名称について

庶務理事

1月25日の評議員会で、天文学会各賞・基金の英文名称が、以下のように決まりましたのでご報告致します。

天体発見賞	The ASJ Award for the Discovery of New Objects
天体発見功労賞	The ASJ Award for the Independent Discovery of New Objects
天文功労賞	The ASJ Award for the Outstanding Achievement by Amateur
研究奨励賞	The ASJ Young Astronomer Award
林忠四郎賞	The Hayashi Chushiro Prize
欧文報告論文賞	The PASJ Excellent Paper Award
早川幸男基金	The Hayakawa Satio Fund

2002 年度日本天文学会各賞について

2002 年度日本天文学会各賞の受賞者と受賞項目は、1 月 25 日の評議員会で次の通り決定されましたのでご報告致します。

◎ 天体発見賞 (13 件 11 名)

- ・佐野康男 (さの やすお) 氏：超新星 2002an の発見
- ・広瀬洋治 (ひろせ ようじ) 氏：超新星 2002ap の発見
- ・串田麗樹 (くしだ れいき) 氏：超新星 2002cr の発見, 超新星 2002fk の発見
- ・土井隆雄 (どいたかお) 氏：超新星 2002gw の発見
- ・MISAO プロジェクト：2001 年のケフェウス座の新星らしき天体の発見
- ・長谷田勝美 (はせだかつみ) 氏：新星へびつかい座 V2540 の発見, 新星いて座 V4743 の発見
- ・板垣公一 (いたがき こういち) 氏：NGC 205 (= M 110) の新星らしき天体の発見
- ・池谷 薫 (いけや かおる) 氏：周期彗星 153P/2002 C1 (Ikeya-Zhang) の発見
- ・宇都宮章吾 (うつのみや しょうご) 氏：彗星 C/2002 F1 (Utsunomiya) の発見
- ・鈴木雅之 (すずき まさゆき) 氏：彗星 C/2002 O6 (SWAN) の発見
- ・工藤哲生 (くどう てつお) 氏：彗星 C/2002 X5 (Kudo-Fujikawa) の発見

◎ 天体発見功労賞 (5 件)

- ・村上茂樹 (むらかみ しげき) 氏：彗星 C/2002 E2(Snyder-Murakami) の独立発見
- ・藤川繁久 (ふじかわ しげひさ) 氏：彗星 C/2002 X5 (Kudo-Fujikawa) の独立発見
- ・中村祐二 (なかむら ゆうじ) 氏：新星へびつかい座 V2540 の独立発見
- ・広瀬洋治 (ひろせ ようじ) 氏：超新星 2002bo の独立発見
- ・串田麗樹 (くしだ れいき) 氏：超新星 2002db の独立発見

◎ 天文功労賞 (2 名)

- ・広瀬敏夫 (ひろせ としお) 氏：星食・掩蔽の観測と指導 (長期的な業績)
- ・早水 勉 (はやみず つとむ) 氏：土星の衛星テティスによる掩蔽の観測指揮 (短期的な業績)

◎ 研究奨励賞 (3 名)

- ・大西利和 (おおにし としかず) 氏：名古屋大学大学院理学系研究科・助手
研究テーマ：「おうし座における星のない分子雲コアの観測的研究」
- ・北山 哲 (きたやま てつ) 氏：東邦大学理学部・講師
研究テーマ：「銀河団の多波長観測による観測的宇宙論」
- ・小久保英一郎 (こくぼ えいいちろう) 氏：国立天文台理論天文学研究系・助手
研究テーマ：「惑星系形成過程の理論的研究」

◎ 林忠四郎賞 (1 名)

- ・福井康雄 (ふくい やすお) 氏：名古屋大学大学院理学研究科・教授
研究の表題：「星間分子雲の網羅的観測による星形成初期過程の研究」

◎ 欧文報告論文賞 (1 件 3 名)

- ・受賞論文名：Metal Abundances in the Hot Interstellar Medium in Early-Type Galaxies Observed with ASCA
(Publ. Astron. Soc. Japan, Vol.52 pp.685-710. 2000)
- 共著者：松下恭子, 大橋隆哉, 牧島一夫の各氏

以上

訃報

本会正会員で当学会の元理事長齊藤國治氏が、去る2月21日に急逝されました(享年89才)。謹んでご冥福をお祈りするとともに会員諸氏にお知らせ致します。

お詫び

会員の皆様へ

天文月報3月号(96巻第3号)に、2003年度春季総会開催のお知らせとともに、第1号議案、第2号議案が掲載されておりますが、第2号議案のうち監査報告書の部分が脱落してしまいました。

お詫びいたしますとともに、ここに改めまして監査報告を記載いたします。

2003年2月22日

日本天文学会庶務理事 杉山 直

監査報告書

2002年度事業報告書、2002年度決算報告書について、関係書類と共にその内容を監査した結果、法令及び定款に照らして正当であることを認めます。

2003年1月9日

社団法人 日本天文学会
監事 尾崎洋二 印
監事 吉澤正則 印

編集後記

「新任のことは」

◆非常に有能だった前編集委員から仕事を引き継ぎ、大きな責任を感じています。これまで編集者を苦しめてばかりだったので、せいぜいその償いをさせていたきたいと思います。皆さん、お手柔らかにお願い致します。

(洞口俊博)

◆今年から新しく編集委員に加わりました濤崎です。私の所属するぐんま天文台は、公共天文台でありかつ研究機関でもあり、いわば2足の草鞋を履いている所です。これを活かして、いろいろな立場にある方たちの橋渡しとなるような月報作りに努力したいと思っています。原稿執筆依頼に伺った際は、よろしくお願い致します。

(濤崎智佳)

◆編集委員の仕事もはや3年目。そろそろ板についてきてほしいところですが、三鷹にいて校正の仕事がよく回ってくるので、月報の記事を隅々まで読むことになり、強制的な天文学の勉強になっています!?

(藤田 裕)

◆東海地区在住(名古屋大学)ですので、東京で行われている編集活動に大きく貢献することはできないかもしれませんが、原稿集めには活躍したいと思っております。よろしく願います。

(増田 智)

◆果たして編集長の大役が僕なんかにつとまるかどうか、不安に思う今日この頃です。が、心機一転、気持ちを引き締めて編集活動に携わりたいと思います。読者の皆様、他の編集委員の皆様、これから2年間、よろしくお願い致します。

(土橋一仁)

編集委員 土橋一仁(編集長)、上田暁俊、大石奈緒子、太田耕司、亀野誠二、濤崎智佳、藤田 裕、洞口俊博、増田 智
平成15年3月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行 印刷所 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12 啓文堂 松本印刷
定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
Tel: 0422-31-1359(事務所) / 0422-31-5488(月報・欧文編集) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 E-mail: toukou@geppou.asj.or.jp DTP: 峯尾由紀子